

静岡県の高齢者の生活と意識

～令和４年度高齢者の生活と意識に関する調査結果から～

令和５年９月

静岡県健康福祉部
福祉長寿局福祉長寿政策課

目 次

第1章 調査の概要

- 1 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 調査の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 調査の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 調査結果の概要

- 1 回答者の属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 2 高齢者一般調査、総合事業対象者調査及び在宅要支援認定者調査の結果
 - (1) 家族や生活状況について・・・・・・・・・・・・ 7
 - (2) からだを動かすことについて・・・・・・・・・・・・ 8
 - (3) 食えることについて・・・・・・・・・・・・ 12
 - (4) 毎日の生活について・・・・・・・・・・・・ 15
 - (5) 地域での活動について・・・・・・・・・・・・ 18
 - (6) たすけあいについて・・・・・・・・・・・・ 28
 - (7) 健康について・・・・・・・・・・・・ 30
 - (8) 認知症について・・・・・・・・・・・・ 34
 - (9) 健康への取組・関心等について・・・・・・・・・・・・ 35
- 3 在宅要介護認定者調査の結果
 - (1) 介護サービスの利用状況等・・・・・・・・・・・・ 40
 - (2) 主な介護者の状況等・・・・・・・・・・・・ 43

第 1 章 調査の概要

1 調査の目的等

静岡県長寿社会保健福祉計画の策定に当たり、施策の方向性や目標等を定める基礎資料とするため、本県の高齢者の生活実態や普段の意識を把握することを目的に、3年に1度、調査を実施している。

今回は、令和6年度～令和8年度までを期間とする第10次計画に反映させるため、調査を実施した。

2 調査の内容

(1) 調査の種類・対象者

調査の種類	対象者
高齢者一般調査	要支援・要介護認定を受けていない、及び介護予防・日常生活支援総合事業の対象 ^(※) となっていない65歳以上の方
総合事業対象者調査	介護予防・日常生活支援総合事業の対象となっている方
在宅要支援認定者調査	要支援認定を受けている在宅の方
在宅要介護認定者調査	要介護認定を受けている在宅の方

※介護予防・日常生活支援総合事業の対象とは、市町が行う「基本チェックリスト」を受けて生活機能の低下がみられた場合に対象となる。

(2) 調査項目

調査の種類	主な調査項目
高齢者一般調査 在宅要支援認定者調査	(1) 家族や生活状況について (2) 体を動かすこと、食べることについて (3) 毎日の生活について (4) 要支援の状況について
総合事業対象者調査	上記(1)～(3)
在宅要介護認定者調査	・介護サービスの利用状況 ・家族の介護状況

3 調査の実施

(1) 調査の実施主体

県内各市町（全ての市町で実施）

(2) 調査方法

郵送又は訪問による調査

(3) 調査実施の時期

令和4年9月から令和5年3月まで

(4) 調査の集計

各市町においてまとめられた集計表に基づき県が集計

(5) 有効回答数

調査	有効回答者数
高齢者一般調査	40,562人
総合事業対象者調査	2,700人
在宅要支援認定者調査	9,269人
在宅要介護認定者調査	14,836人

※本調査では「高齢者一般調査」を「一般調査」、「総合事業対象者調査」を「総合事業調査」、「在宅要支援認定者調査」を「要支援者調査」、「在宅要介護認定者調査」を「要介護者調査」と記す。

※調査結果の100%積み上げグラフにおいて、端数の処理により合計が100%にならない場合がある。

第 2 章 調査結果の概要

1 回答者の属性

(1) 高齢者一般調査

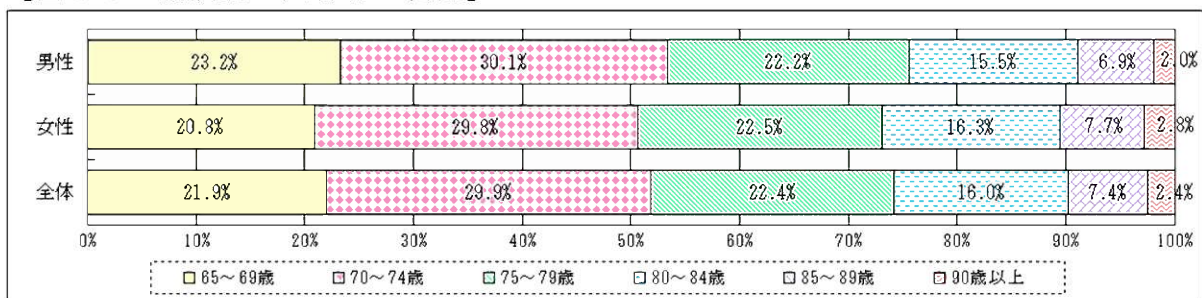
一般調査の回答者の属性は、表 1 及び図 1 のとおり。

【表 1：一般調査の回答者の属性】

(単位：人)

	65～ 69 歳	70～ 74 歳	75～ 79 歳	80～ 84 歳	85～ 89 歳	90 歳 以上	計
男性	4,351	5,626	4,160	2,908	1,300	370	18,715
(割合)	(23.2%)	(30.1%)	(22.2%)	(15.5%)	(6.9%)	(2.0%)	(100.0%)
女性	4,545	6,514	4,908	3,570	1,691	619	21,847
(割合)	(20.8%)	(29.8%)	(22.5%)	(16.3%)	(7.7%)	(2.8%)	(100.0%)
全体	8,896	12,140	9,068	6,478	2,991	989	40,562
(割合)	(21.9%)	(29.9%)	(22.4%)	(16.0%)	(7.4%)	(2.4%)	(100.0%)

【図 1：一般調査の回答者の属性】



(2) 総合事業対象者調査

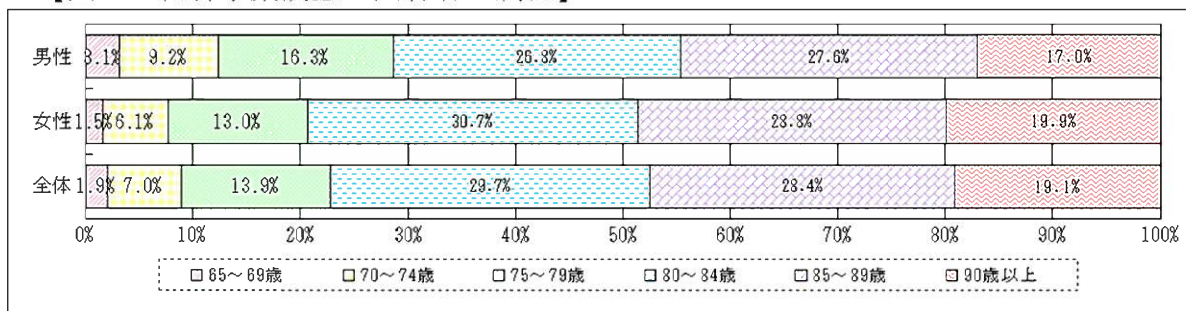
総合事業調査の回答者の属性は、表 2 及び図 2 のとおり。

【表 2：総合事業調査の回答者の属性】

(単位：人)

	65～ 69 歳	70～ 74 歳	75～ 79 歳	80～ 84 歳	85～ 89 歳	90 歳 以上	計
男性	23	68	121	199	205	126	742
(割合)	(3.1%)	(9.2%)	(16.3%)	(26.8%)	(27.6%)	(17.0%)	(100.0%)
女性	29	120	254	602	563	390	1,958
(割合)	(1.5%)	(6.1%)	(13.0%)	(30.7%)	(28.8%)	(19.9%)	(100.0%)
全体	52	188	375	801	768	516	2,700
(割合)	(1.9%)	(7.0%)	(13.9%)	(29.7%)	(28.4%)	(19.1%)	(100.0%)

【図 2：総合事業調査の回答者の属性】



(3) 在宅要支援認定者調査

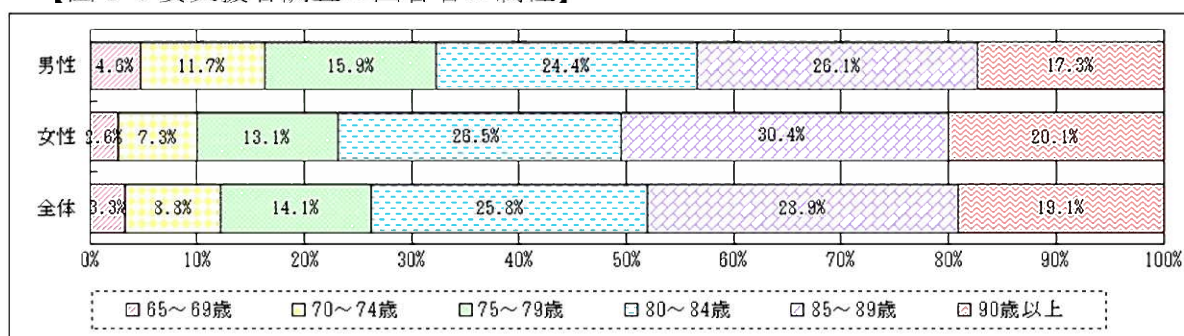
要支援者調査の回答者の属性は、表3及び図3のとおり。

【表3：要支援者調査の回答者の属性】

(単位：人)

	65～ 69 歳	70～ 74 歳	75～ 79 歳	80～ 84 歳	85～ 89 歳	90 歳 以上	計
男性	146	370	505	772	828	547	3,168
(割合)	(4.6%)	(11.7%)	(15.9%)	(24.4%)	(26.1%)	(17.3%)	(100.0%)
女性	161	446	800	1,615	1,854	1,225	6,101
(割合)	(2.6%)	(7.3%)	(13.1%)	(26.5%)	(30.4%)	(20.1%)	(100.0%)
全体	307	816	1,305	2,387	2,682	1,772	9,269
(割合)	(3.3%)	(8.8%)	(14.1%)	(25.8%)	(28.9%)	(19.1%)	(100.0%)

【図3：要支援者調査の回答者の属性】



(4) 在宅要介護認定者調査

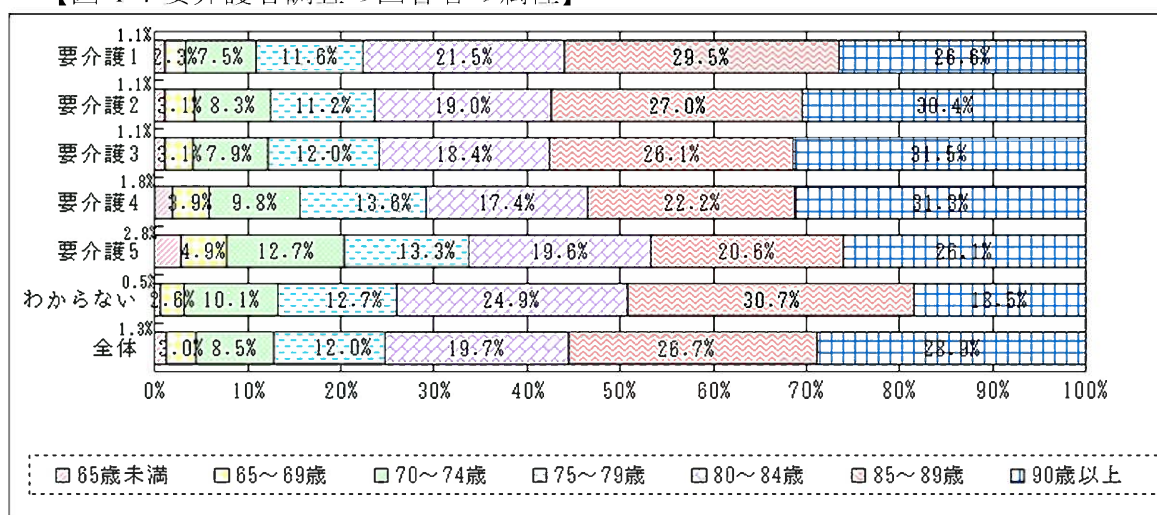
要介護者調査の回答者の属性は、表4及び図4のとおり。

【表4：要介護者調査の回答者の属性】

(単位：人)

	65歳未満	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	計
要介護1 (割合)	54 (1.1%)	116 (2.3%)	380 (7.5%)	594 (11.6%)	1,096 (21.5%)	1,505 (29.5%)	1,354 (26.6%)	5,099 (100.0%)
要介護2 (割合)	46 (1.1%)	127 (3.1%)	339 (8.3%)	459 (11.2%)	780 (19.0%)	1,107 (27.0%)	1,249 (30.4%)	4,107 (100.0%)
要介護3 (割合)	27 (1.1%)	78 (3.1%)	201 (7.9%)	305 (12.0%)	467 (18.4%)	663 (26.1%)	800 (31.5%)	2,541 (100.0%)
要介護4 (割合)	33 (1.8%)	71 (3.9%)	178 (9.8%)	247 (13.6%)	315 (17.4%)	402 (22.2%)	567 (31.3%)	1,813 (100.0%)
要介護5 (割合)	30 (2.8%)	53 (4.9%)	138 (12.7%)	145 (13.3%)	213 (19.6%)	224 (20.6%)	284 (26.1%)	1,087 (100.0%)
わからない (割合)	1 (0.5%)	5 (2.6%)	19 (10.1%)	24 (12.7%)	47 (24.9%)	58 (30.7%)	35 (18.5%)	189 (100.0%)
全体 (割合)	191 (1.3%)	450 (3.0%)	1,255 (8.5%)	1,774 (12.0%)	2,918 (19.7%)	3,959 (26.7%)	4,289 (28.9%)	14,836 (100.0%)

【図4：要介護者調査の回答者の属性】



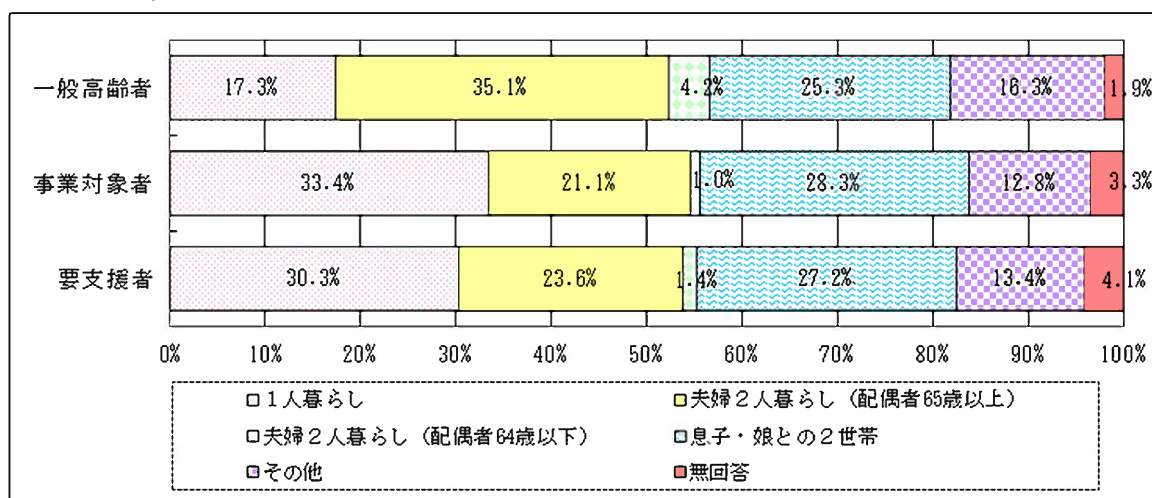
2 一般調査、総合事業調査及び要支援者調査の共通項目の結果

※グラフの表記について、一般調査の対象者を一般高齢者、総合事業調査の対象者を事業対象者、要支援者調査の対象者を要支援者と表記する。また、特に表記のあるもの以外（例：65～69歳）は一般高齢者とする。

(1) 家族や生活状況について

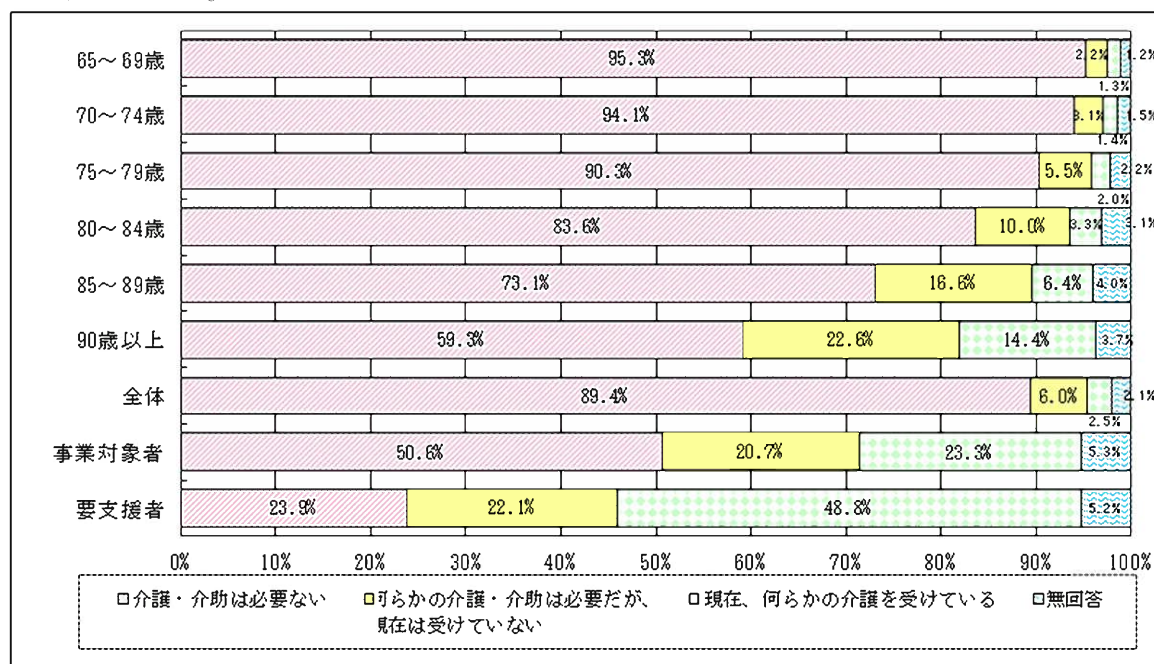
① 家族構成について

一般高齢者は夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）が約4割、事業対象者、要支援者は1人暮らしの割合が約3割と一番高く、いずれも、高齢者のみ世帯（1人暮らし及び夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上））の割合が約5割となっている。



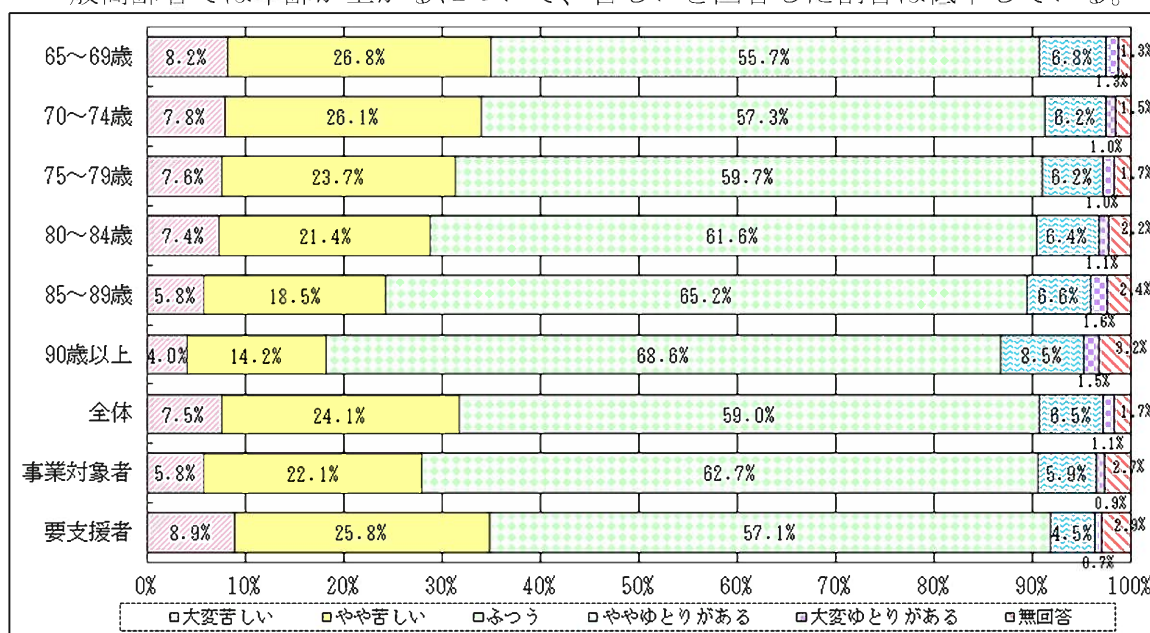
② 普段の生活での介護・介助について

一般高齢者の70代までは約9割が介護・介助は必要ない回答している一方、80代では約2割、90歳以上では約4割が何らかの介護・介助が必要と回答している。また、事業対象者は約7割、要支援者は約5割が現在介護・介助を受けていない。



③ 現在の経済的な暮らしの状況について

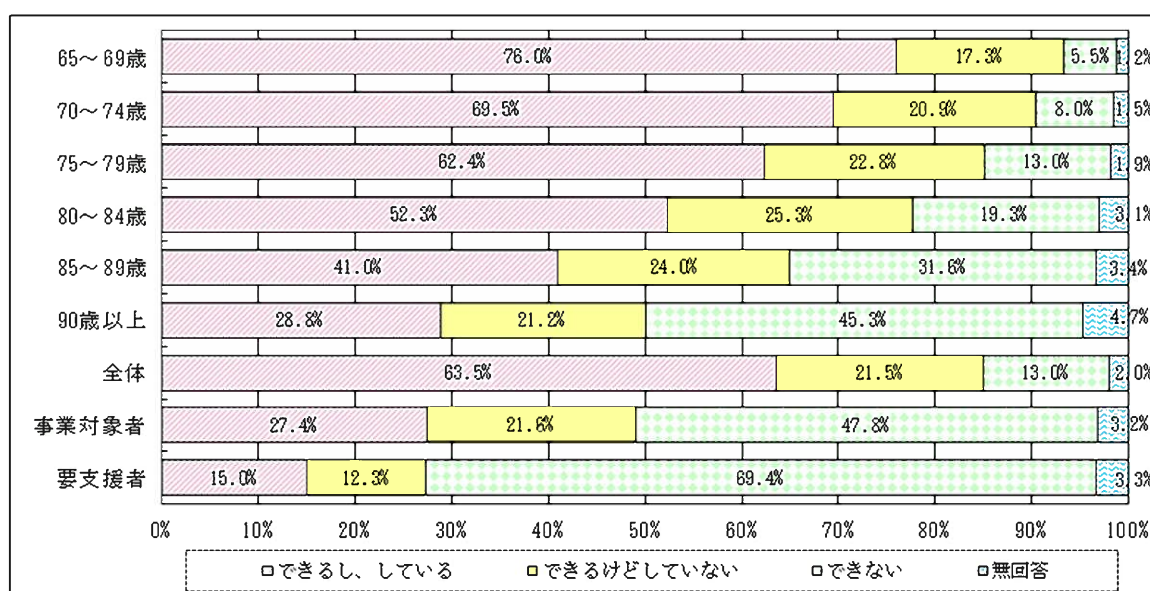
経済的な暮らしの状況が苦しい（大変苦しい、やや苦しい）と回答した割合は一般高齢者、事業対象者、要支援者ともに3割前後となっている。また、一般高齢者では年齢が上がるにつれて、苦しいと回答した割合は低下している。



(2) からだを動かすことについて

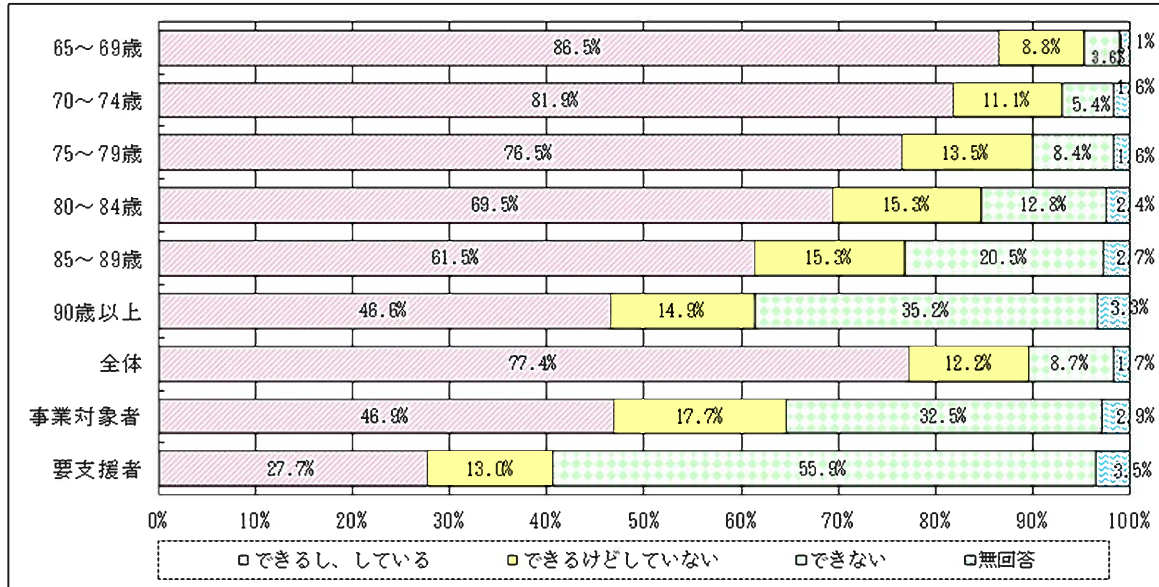
① 階段を昇ることについて

階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるし、していると回答した割合は、一般高齢者の60代では約8割であるのに対し、90歳以上では、約3割と年齢があがるにつれ低下している。また、事業対象者では、約3割、要支援者では約2割となっている。



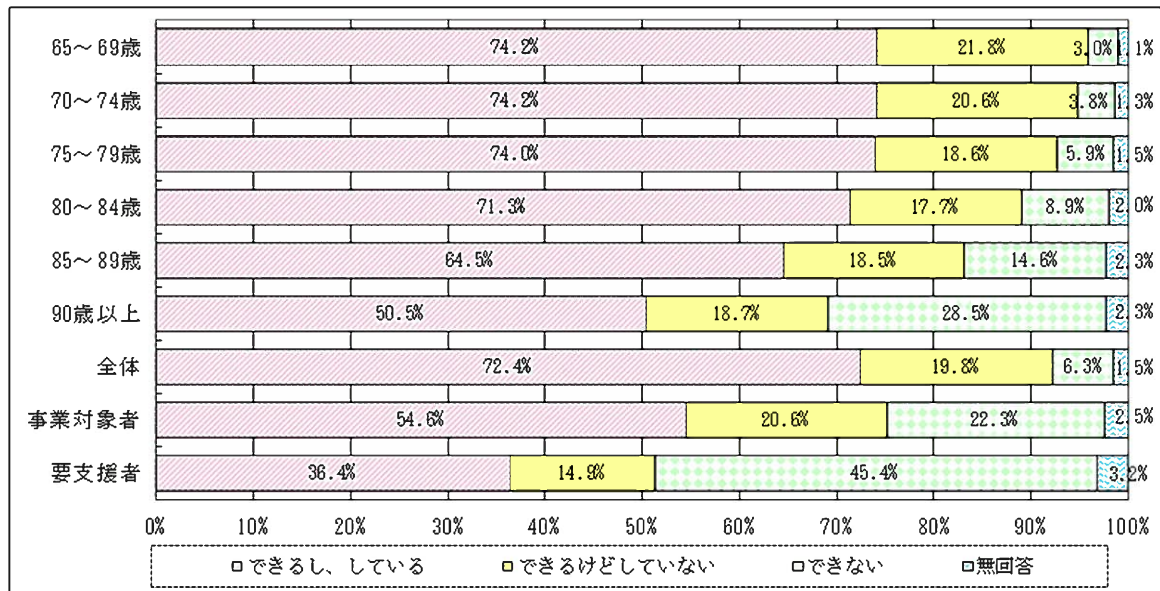
② 椅子からの立ち上がりについて

椅子に座った状態から何もつかまらずに立つことができるし、していると回答した割合は、一般高齢者の60代では約9割であるのに対し、90歳以上では、約5割と年齢があがるにつれ低下している。また、事業対象者では約5割、要支援者では約3割となっている。



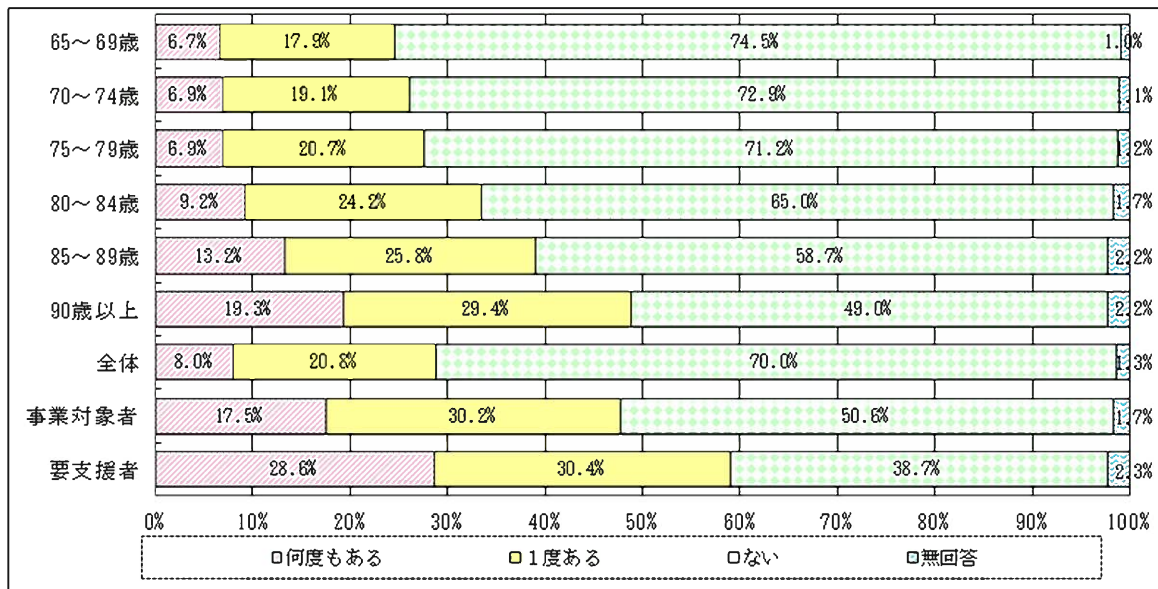
③ 15分間の歩行について

15分位続けて歩くことができないと回答した割合は、一般高齢者では、年齢と共に上がっていき、90歳以上では約3割となっている。また、事業対象者では、約2割、要支援者では約5割となっている。



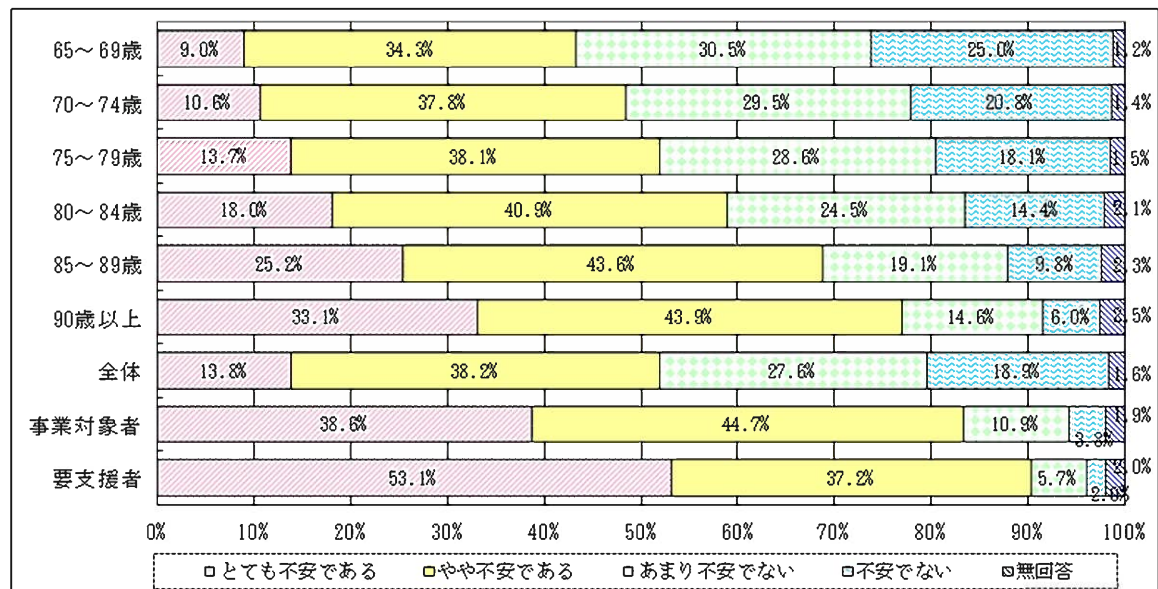
④ 過去1年間に転んだ経験について

過去1年間に転んだ経験がある(何度もある、1度ある)割合は、一般高齢者の60代では約2割となっているが、90歳以上では約5割と年齢があがにつれ増加している。また、事業対象者では約5割、要支援者では約6割となっている。



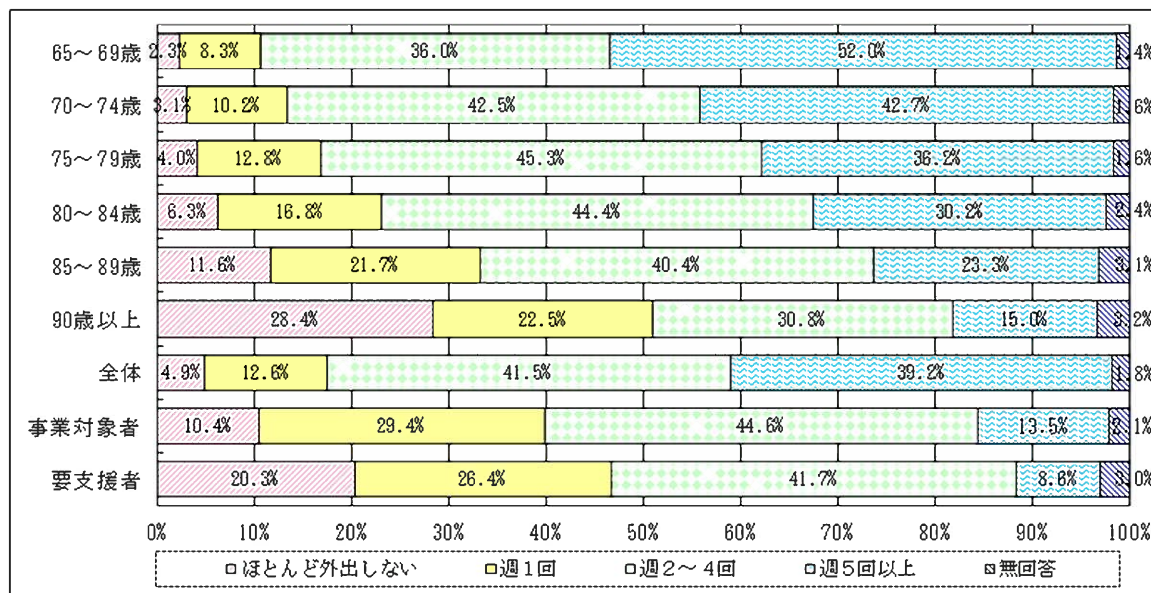
⑤ 転倒に対する不安について

転倒に対して不安(とても不安である、やや不安である)と回答した割合は、一般高齢者の60代では約4割となっているが、90歳以上では約8割と年齢があがにつれ増加している。また、事業対象者では約8割、要支援者では約9割となっている。



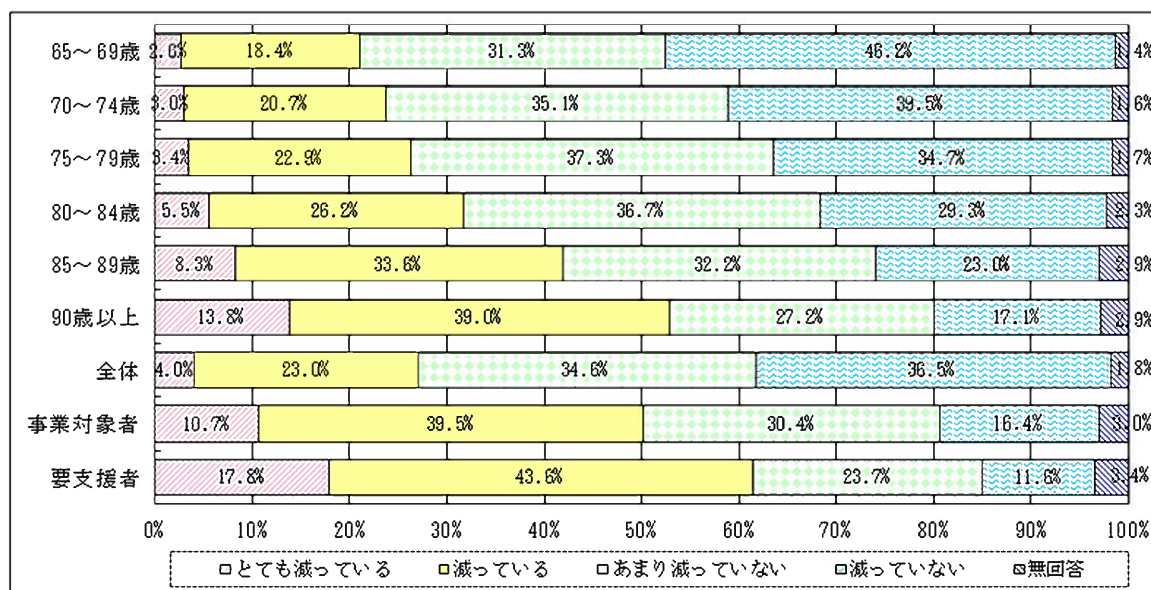
⑥ 外出の頻度について

1週間の外出頻度は、一般高齢者の60代では週5回以上と回答した割合が約5割と一番多くなっているが、90歳以上では、週に1回、もしくはほとんど外出しないと回答した割合が約5割と年齢があがるにつれ外出する頻度が減っている。また、事業対象者、要支援者共に、週2～4回以上と回答した割合が一番多く、事業対象者、要支援者ともに約4割となっている。



⑦ 昨年と比べた外出回数の減少について

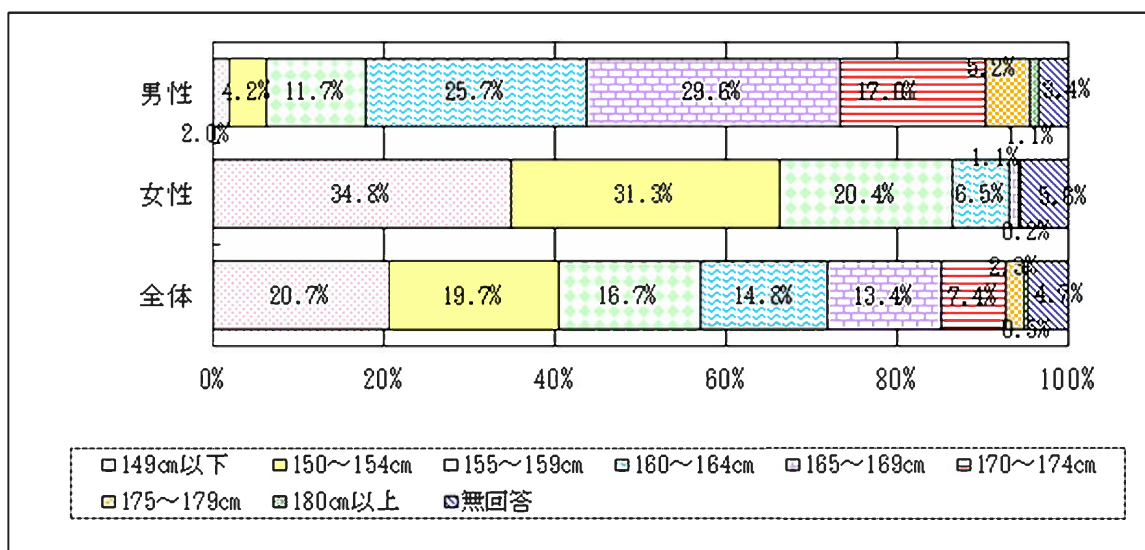
昨年と比べて外出機会がとて減っている、減っていると回答した割合は、一般高齢者の60代では約2割であるのに対し、90歳以上では約5割と年齢が上がるにつれ外出機会が減少している。また、事業対象者では約5割、要支援者では約6割となっている。



(3) 食べることについて

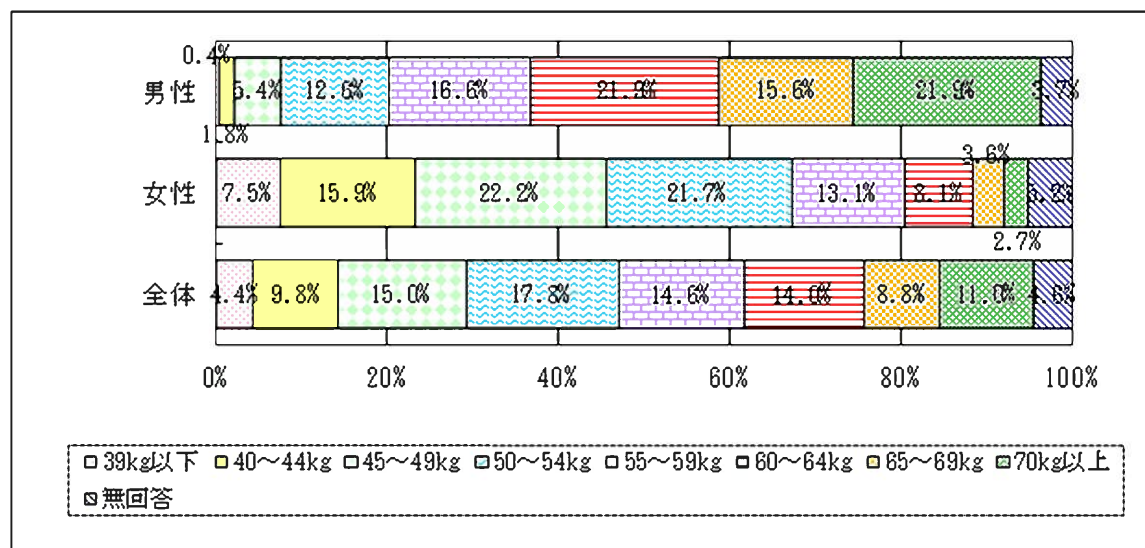
① 身長について

男性は 165～169cm が一番多く約 3 割、女性は 149cm 以下が一番多く約 3 割となっている。



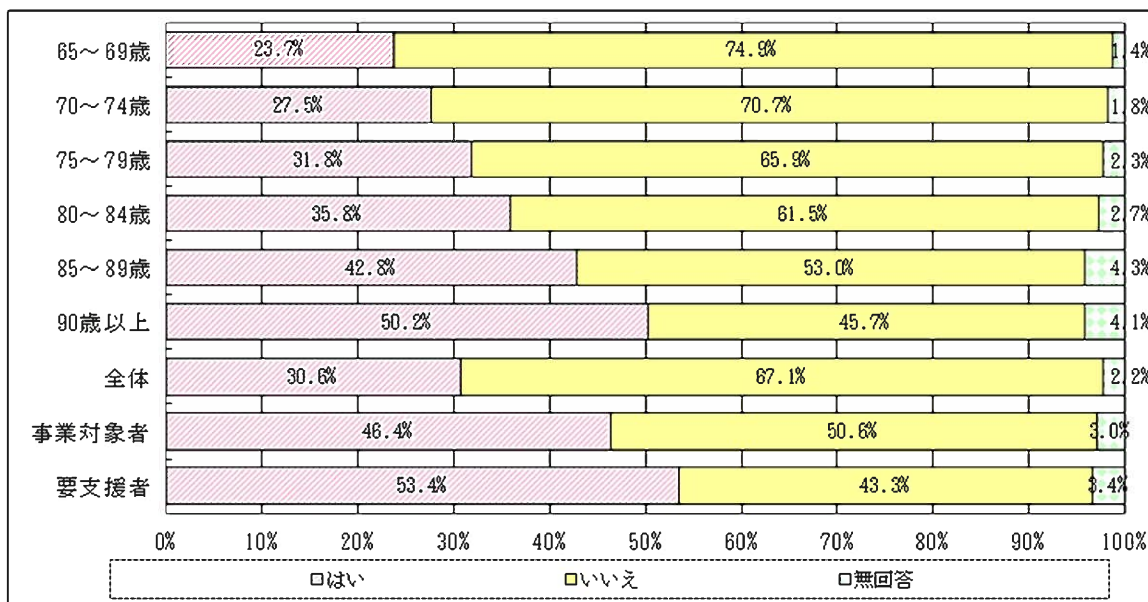
② 体重について

体重については、男性は 60～64kg、女性は 45～49kg が一番多く、ともに約 2 割となっている。



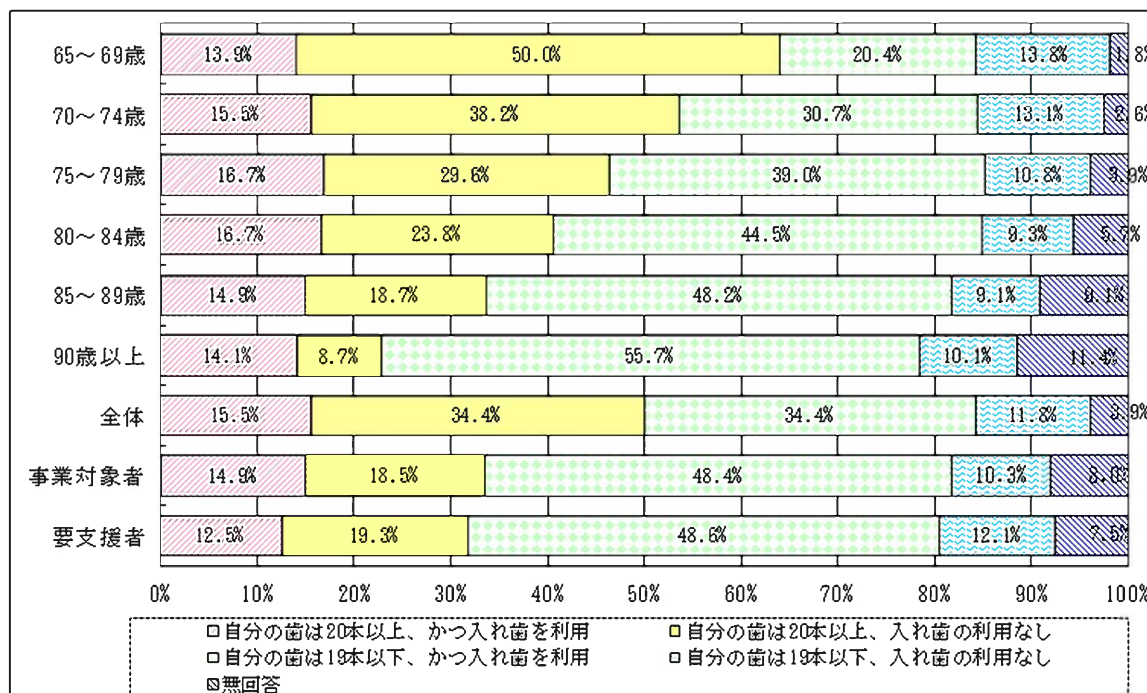
③ 半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについて

半年前に比べて固いものが食べにくくなったと回答した割合は、一般高齢者の60代では約2割であるのに対し、90歳以上では約5割と年齢が上がるにつれ増加している。また、事業対象者、要支援者共に約5割となっている。



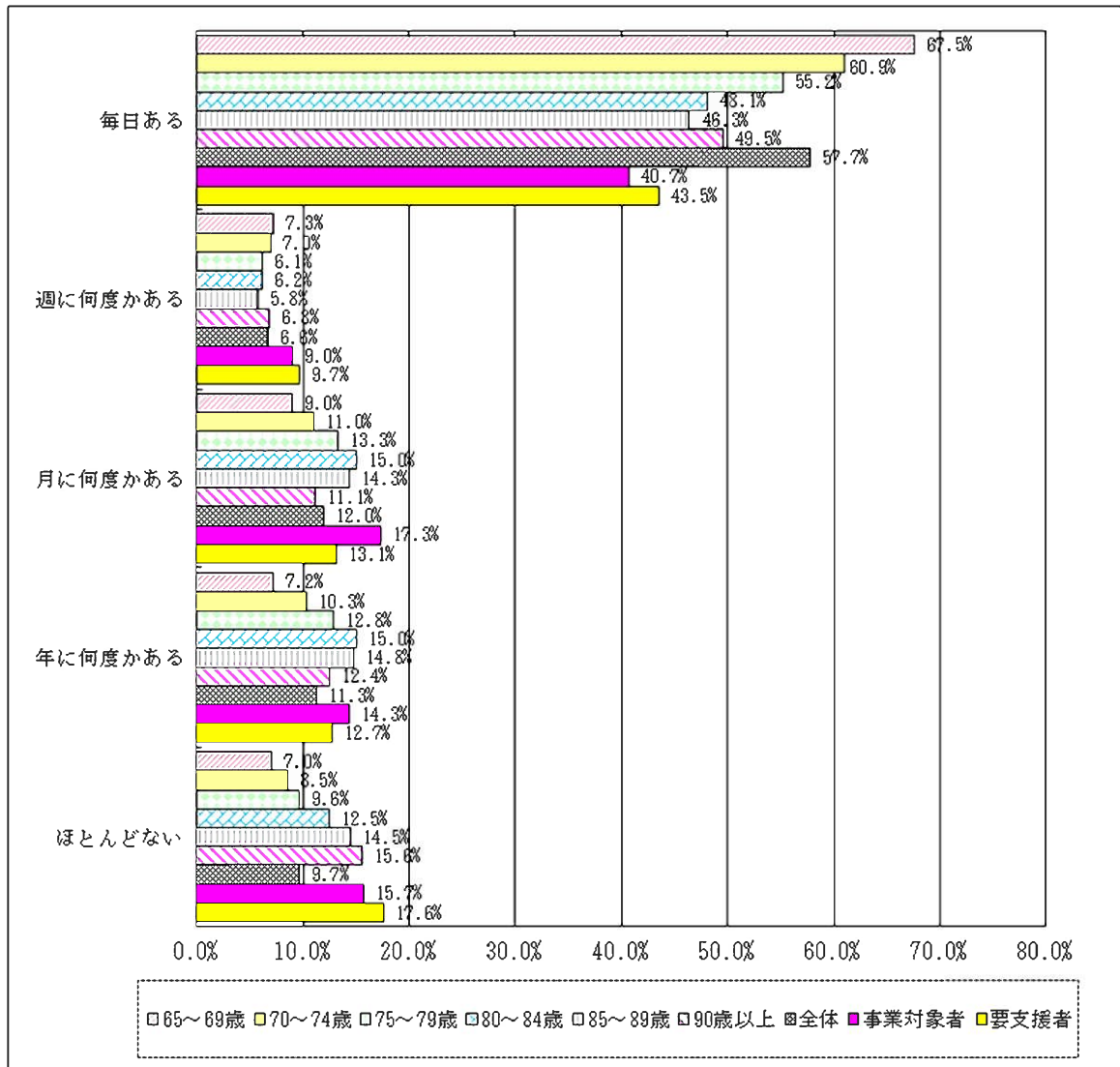
④ 歯の数と入れ歯の利用状況について

一般高齢者の60代では自分の歯が20本以上ある割合が約6割であるのに対し、90歳以上では約2割と年齢が上がるにつれ減少する傾向となっている。また、事業対象者、要支援者では共に約3割となっている。



⑤ 誰かと食事をする機会について

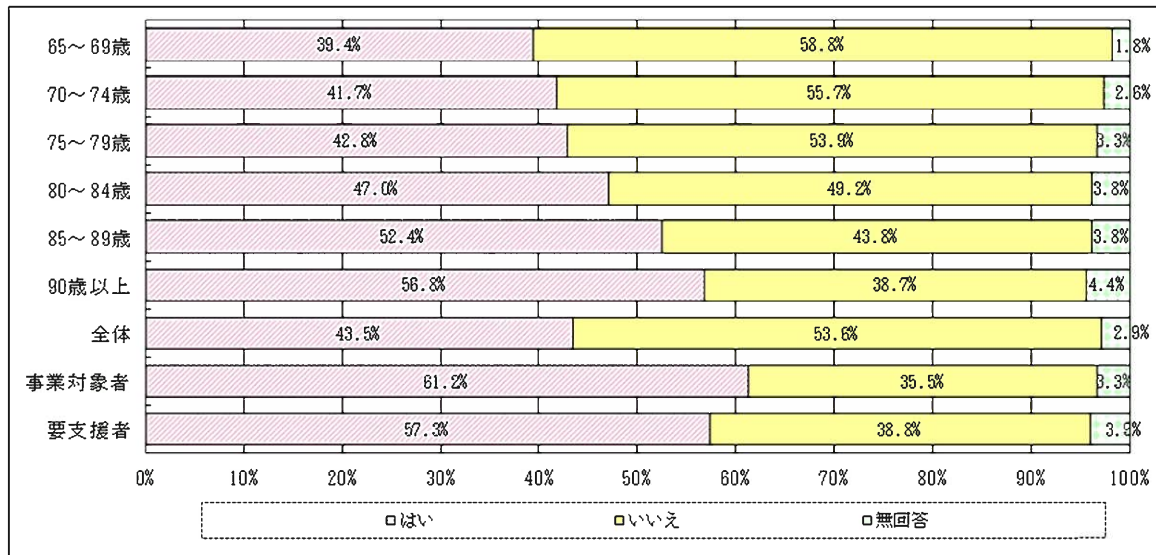
誰かと食事をする機会が毎日あると回答した割合は、一般高齢者のすべての年齢階級、総合事業対象者、要支援者共に4割を超えており、一番高くなっている。一方、誰かと食事をする機会がほとんどないと回答した割合は、一般高齢者、総合事業対象者、要支援者の順に低くなっている。



(4) 毎日の生活について

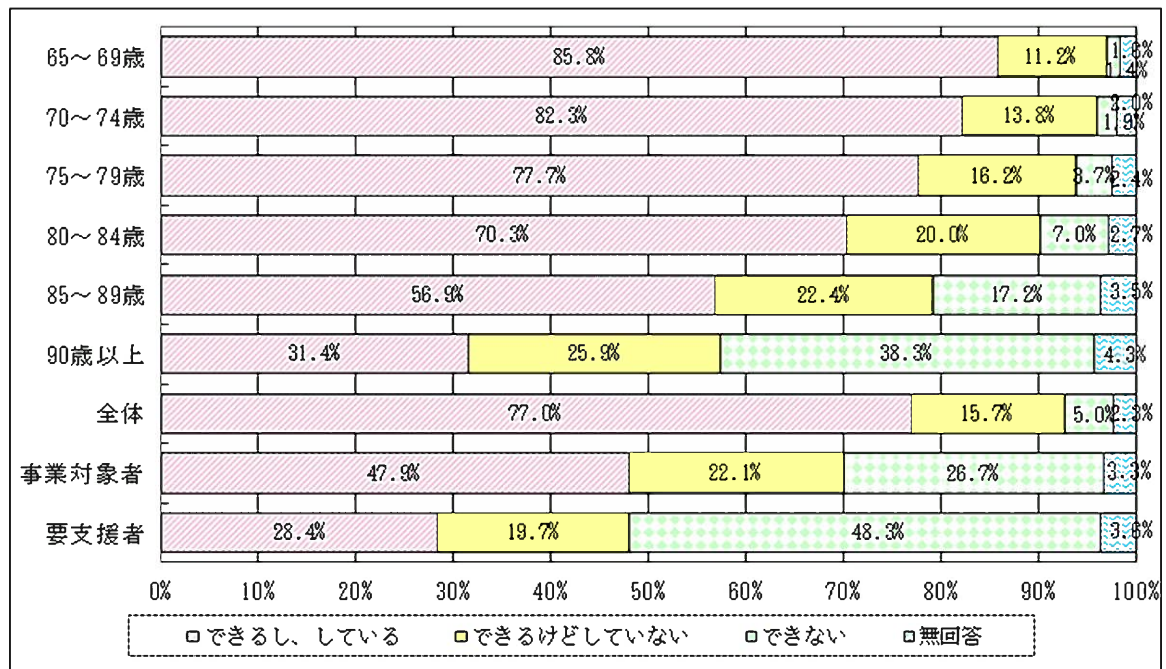
① 忘れ物の多さについて

物忘れが多いと感じている割合は一般高齢者の80歳未満では約4割であるのに対し、90歳以上では約6割と年齢が上がるにつれ増加している。また、事業対象者、要支援者共に約6割となっている。



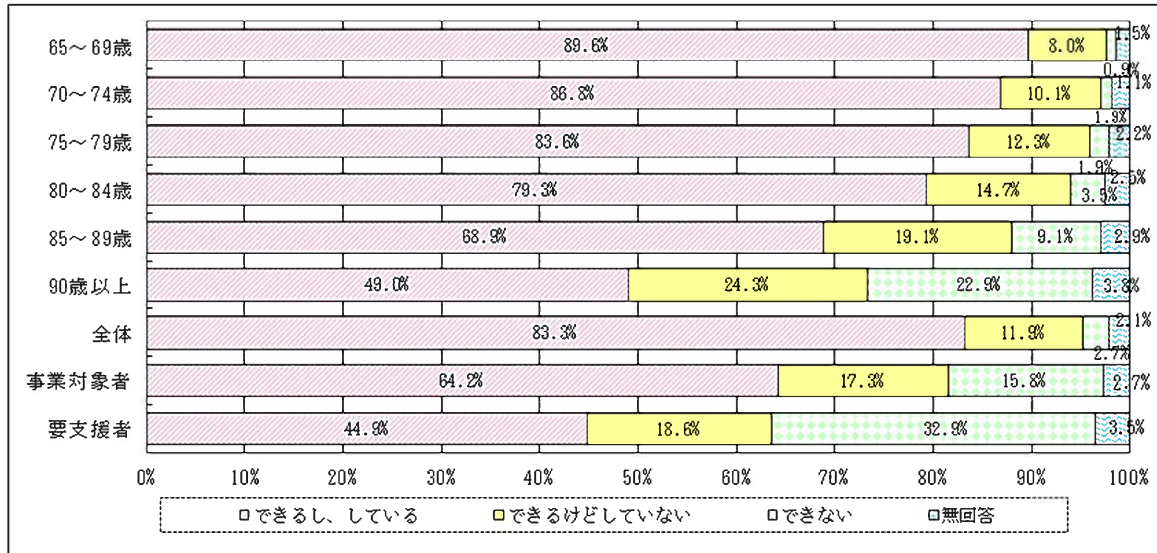
② バスや電車を使った外出について

バスや電車を使って1人で外出できるし、していると回答した割合は、一般高齢者の75歳未満では8割以上であるのに対し、90歳以上では約3割と年齢が上がるにつれ減少している。また、事業対象者では約5割、要支援者では約3割となっている。



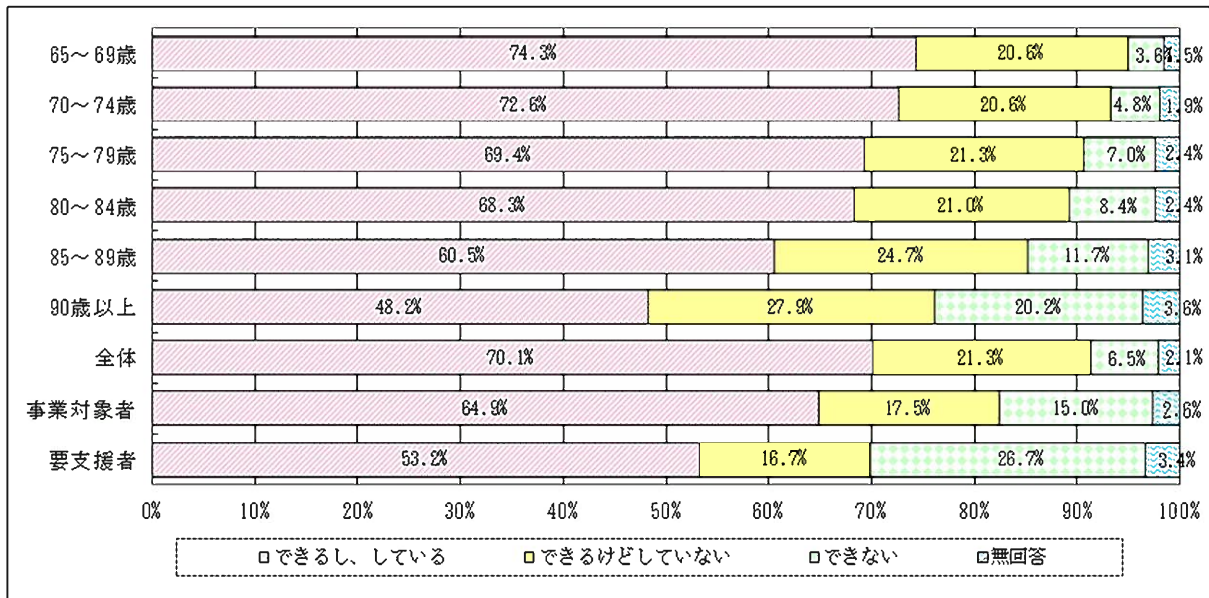
③ 食品・日用品の買い物について

自分で食品・日用品の買い物をできるし、していると回答した割合は、一般高齢者の80歳未満では8割以上であるのに対し、90歳以上では約5割と年齢が上がるにつれ減少している。また、事業対象者では約6割、要支援者では約4割となっている。



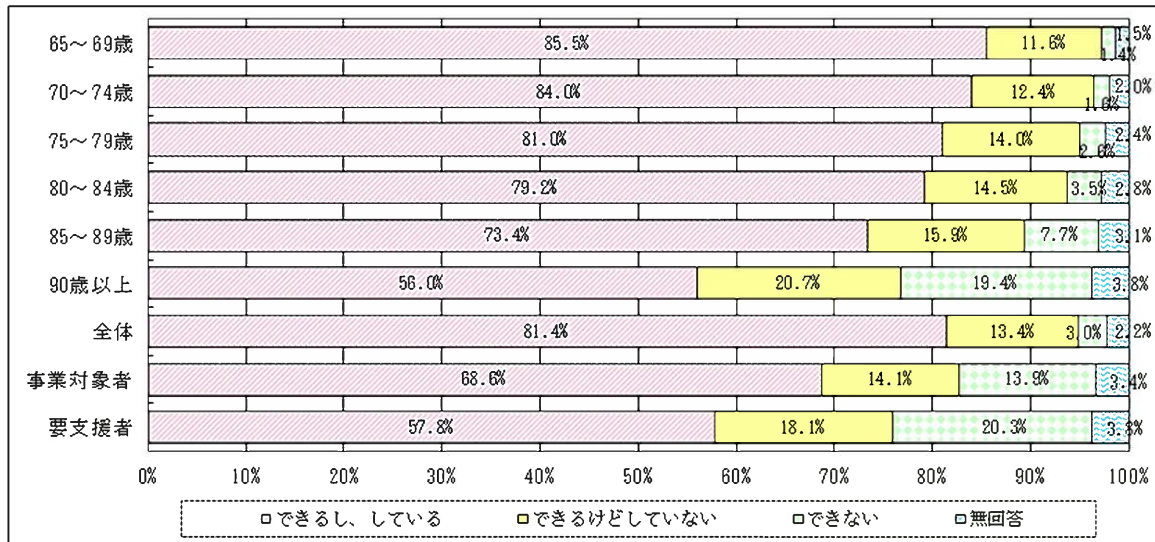
④ 食事の用意について

自分で食事の用意をできるし、していると回答した割合は、一般高齢者の85歳未満では約7割であるのに対し、90歳以上では約5割と年齢が上がるにつれ減少している。また、事業対象者では約6割、要支援者では約5割となっている。



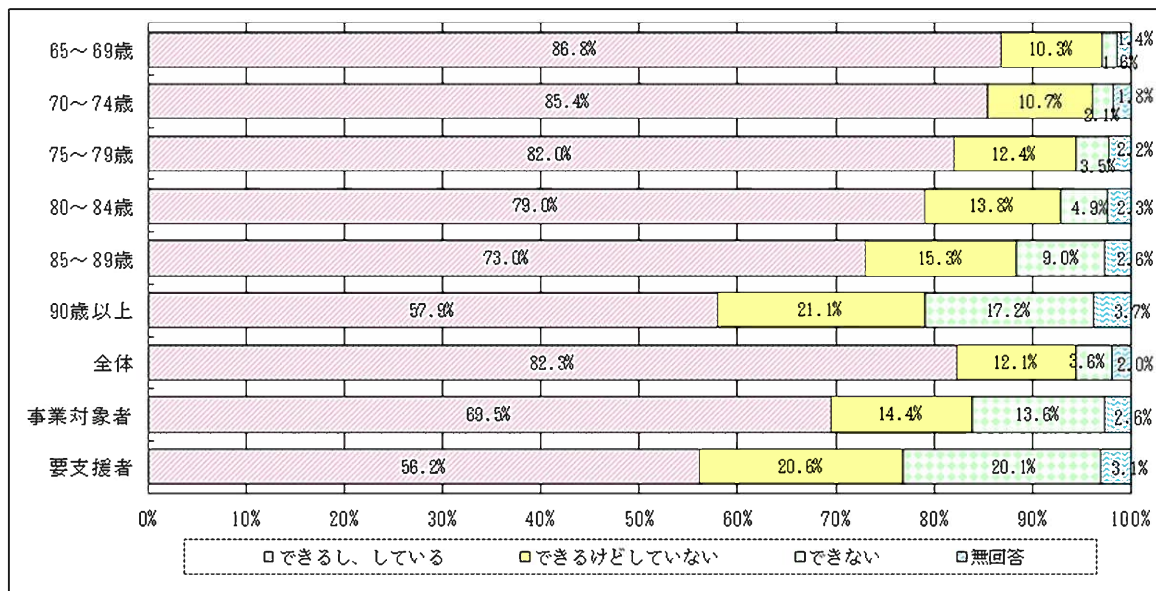
⑤ 請求書の支払いについて

自分で請求書の支払をできるし、していると回答した割合は、一般高齢者の80歳未満では8割を超えているのに対し、90歳以上では約6割となっている。また、事業対象者では約7割、要支援者では約6割となっている。



⑥ 預貯金の出し入れについて

自分で預貯金の出し入れをできるし、していると回答した割合は、一般高齢者の75歳未満では約9割であるのに対し、90歳以上では約6割、事業対象者では約7割、要支援者では約6割となっている。



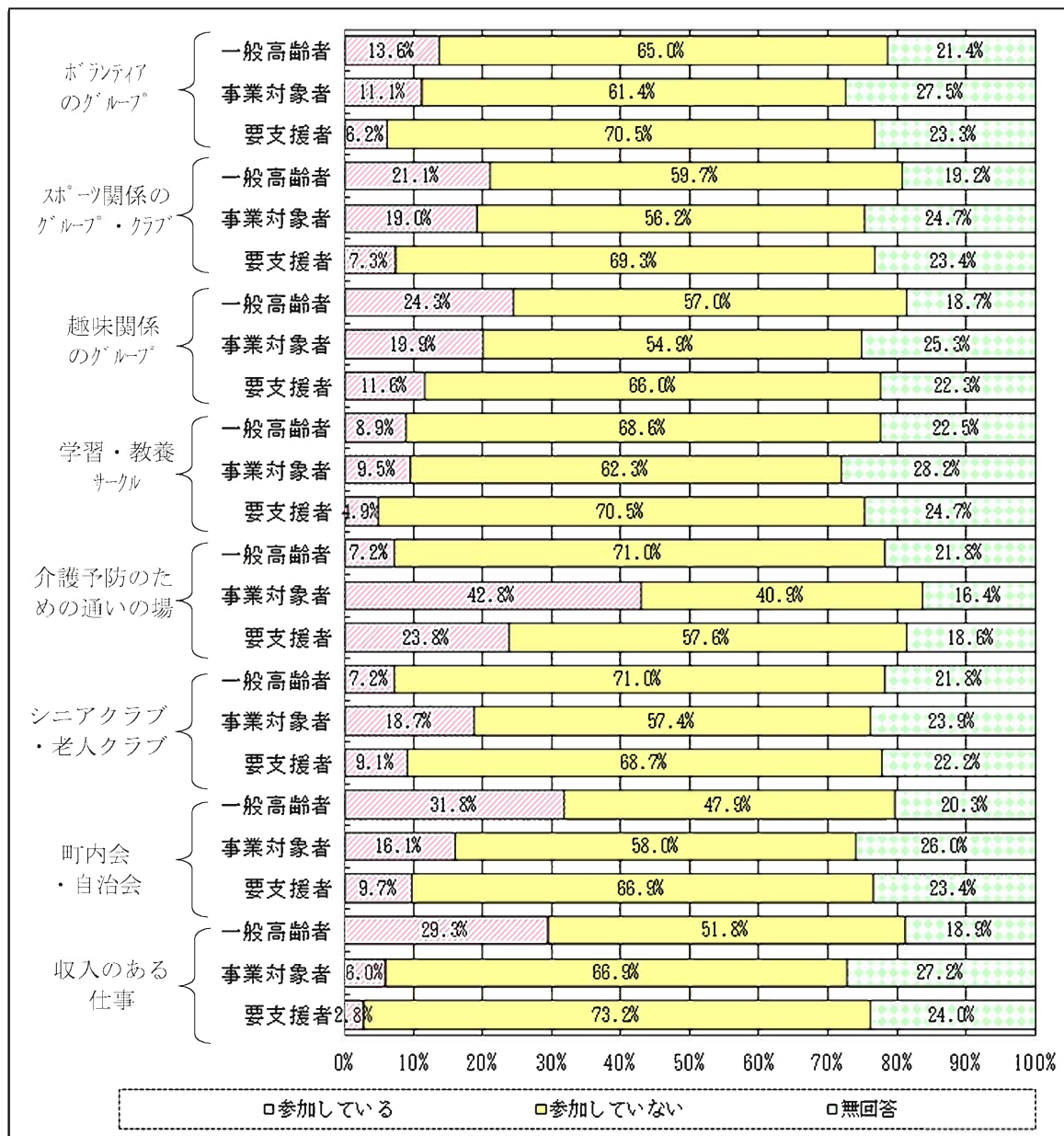
(5) 地域での活動について

① 地域活動の参加の有無について

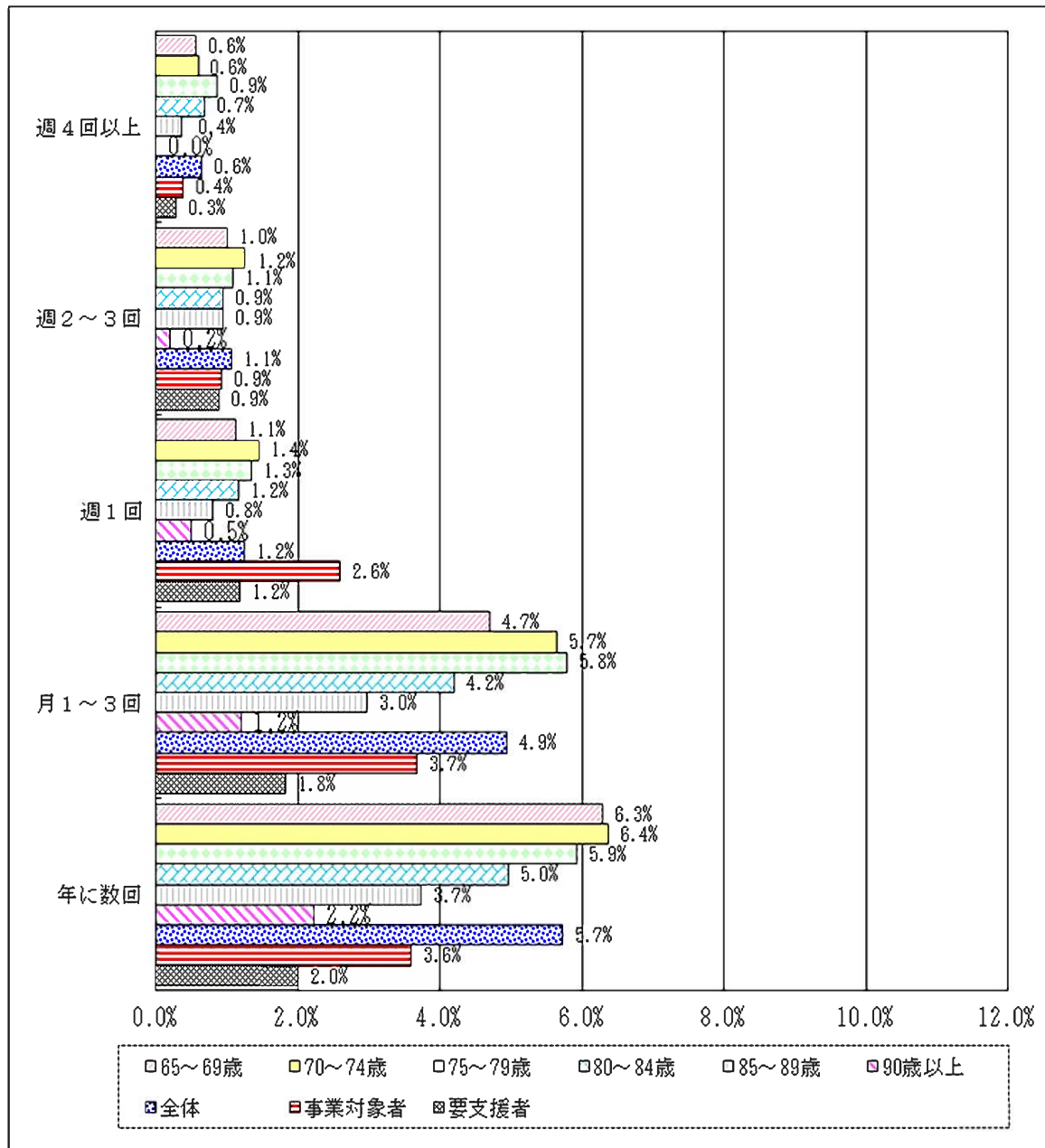
地域活動の参加状況については、一般高齢者では自治会・町内会への参加が一番多く約3割となっており、続いて収入のある仕事となっている。頻度をみると、自治会・町内会への参加が年に数回の参加が一番多いのに対し、趣味関係が月に1～3回が一番多くなっている。

事業対象者、要支援者では介護予防のための通いの場への参加が一番多く、事業対象者は約4割、要支援者は約2割となっている。また、参加の頻度については、週に1回参加している割合が一番多く、事業対象者は約2割、要支援者は約1割となっている。

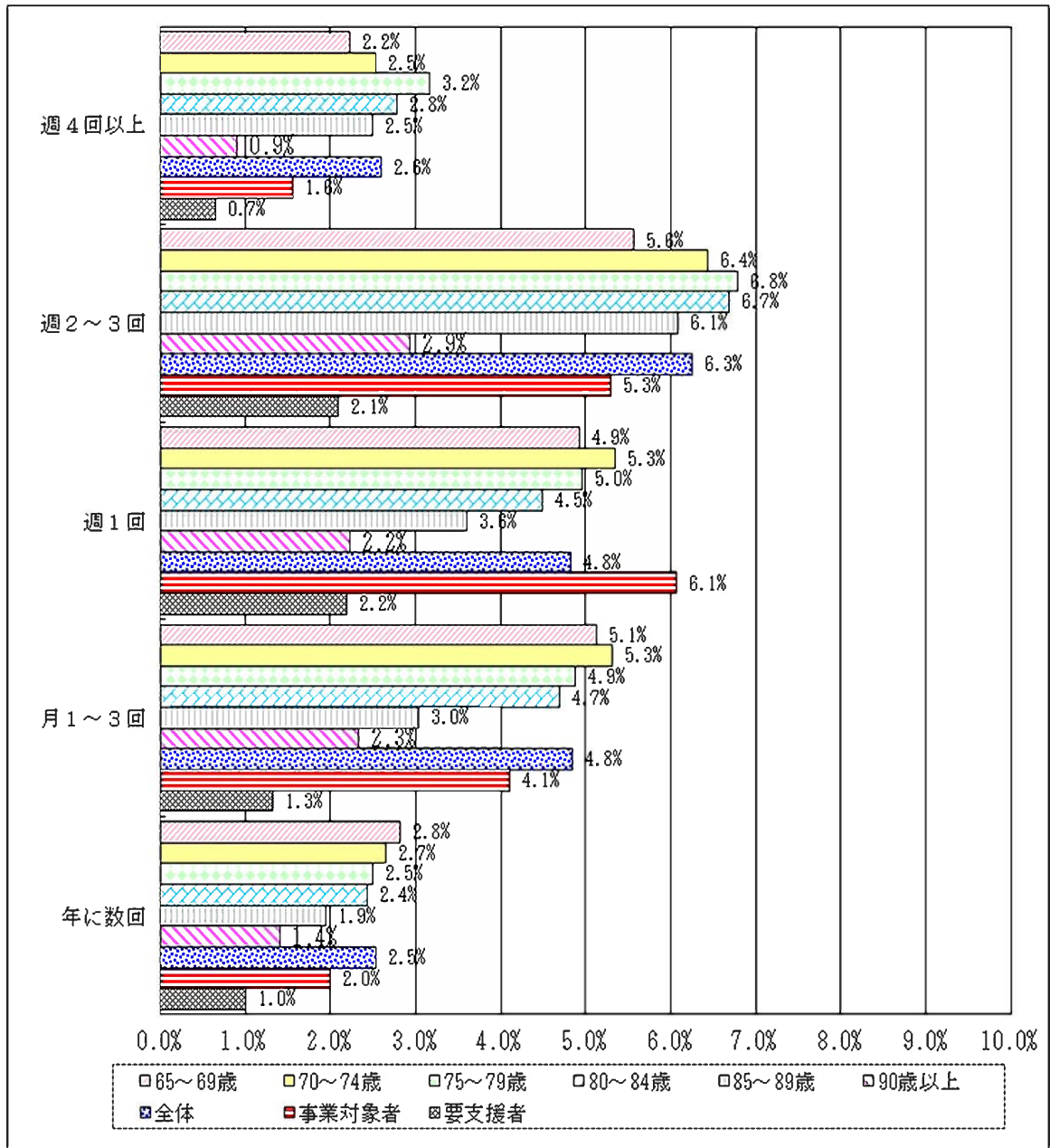
また、種類ごとの参加の頻度は図4～7のとおり。



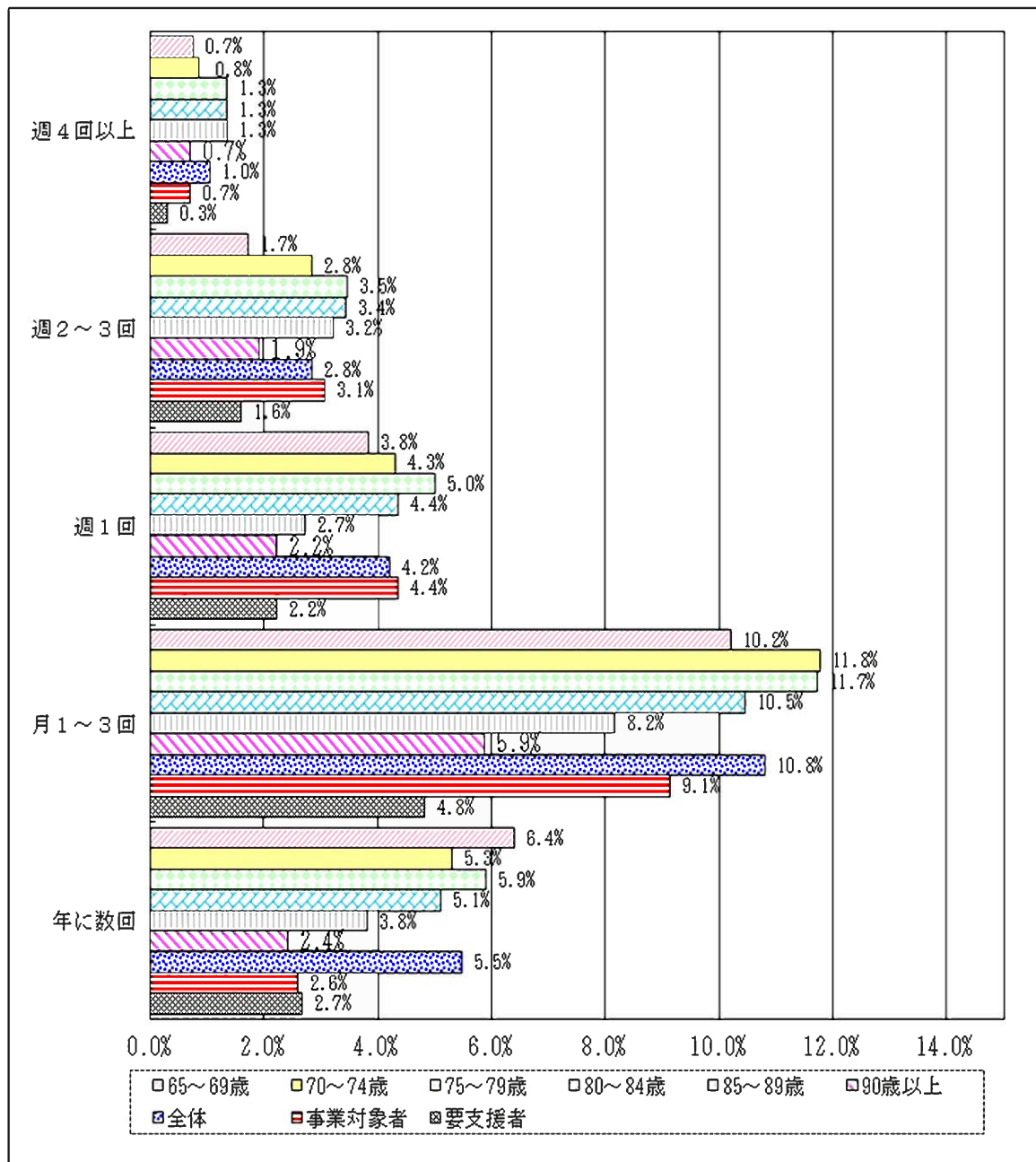
【図 4：ボランティアのグループへの参加頻度】



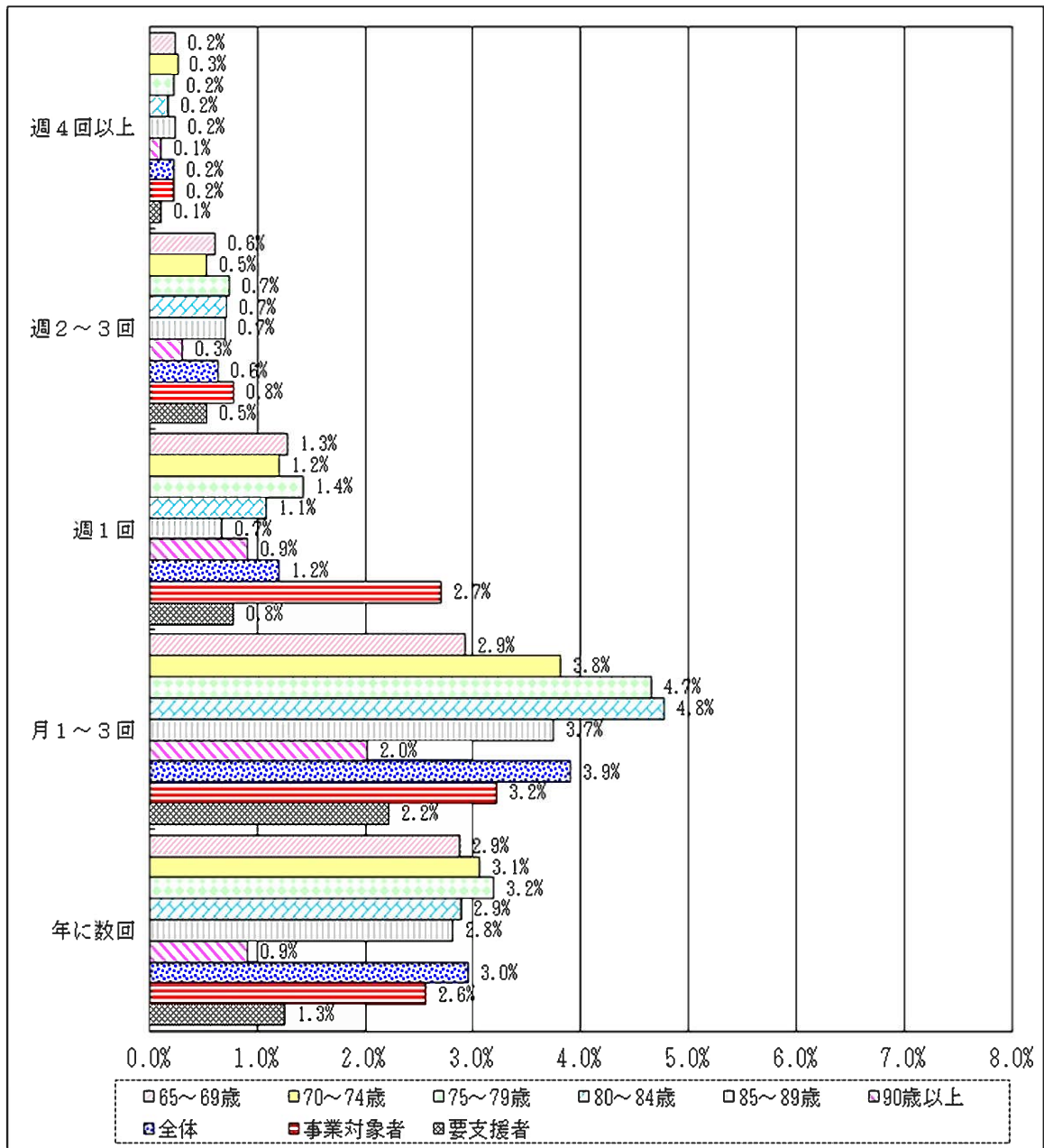
【図 5：スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度】



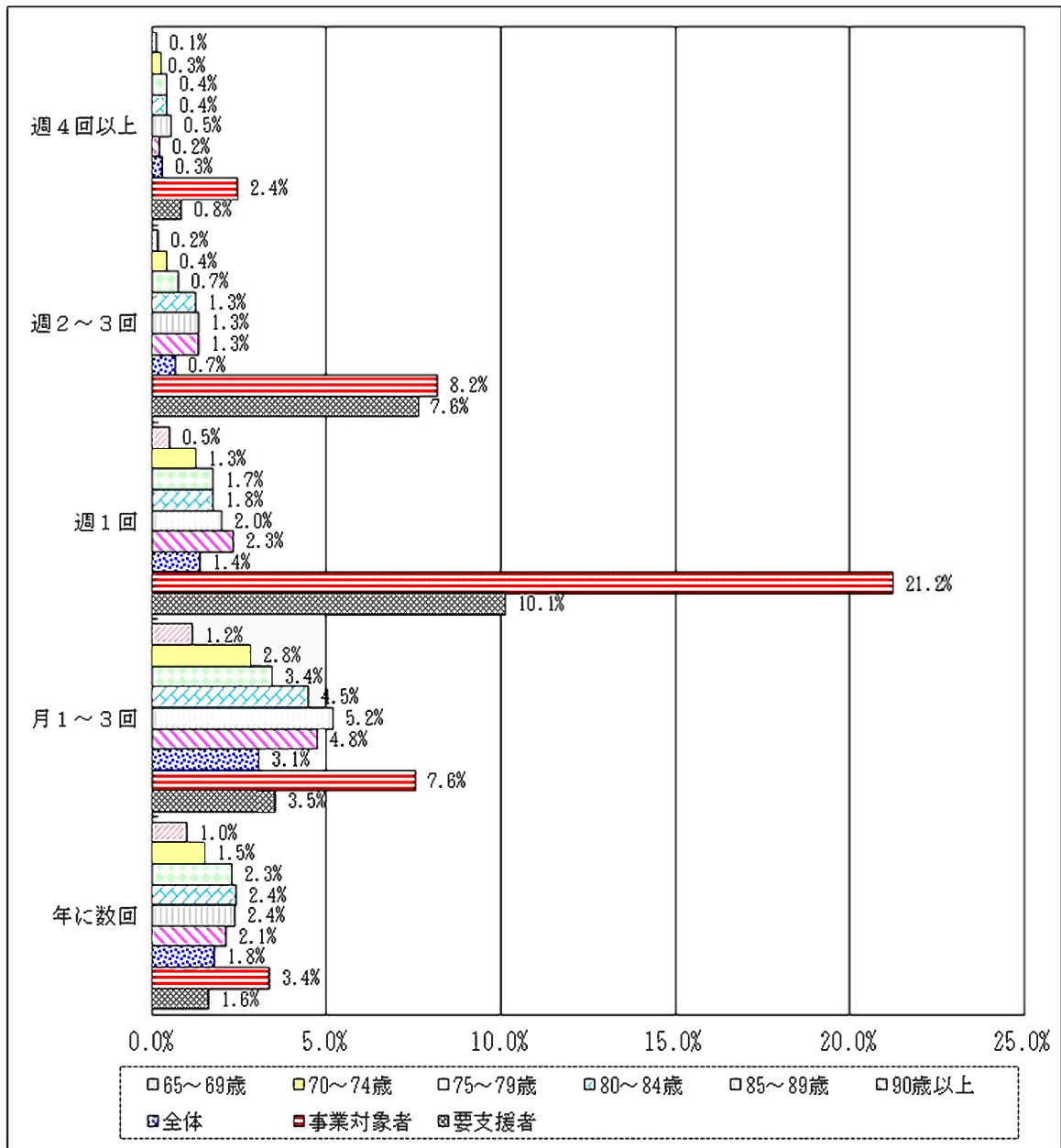
【図6：趣味関係のグループへの参加頻度】



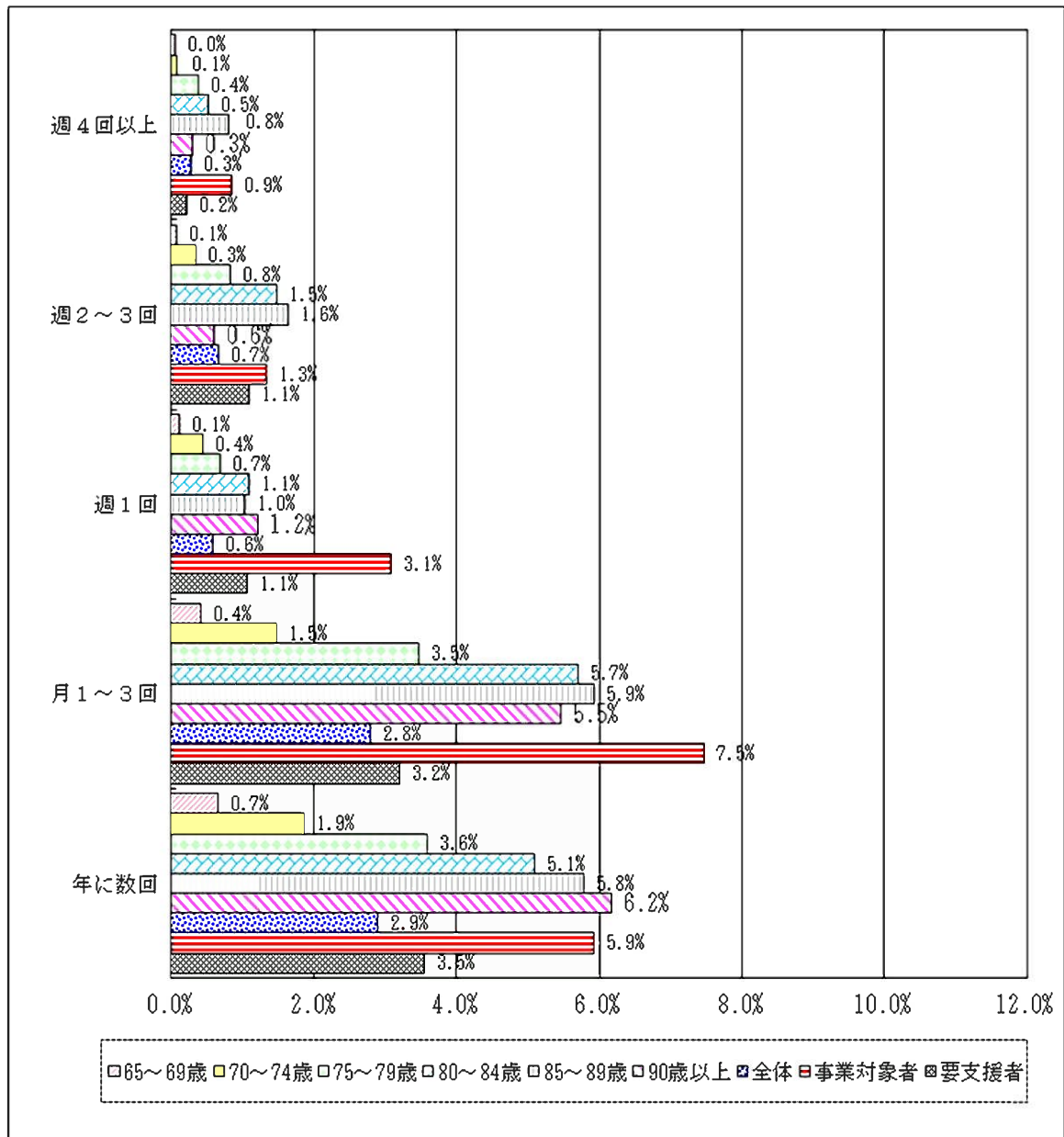
【図 7：学習・教養サークルへの参加頻度】



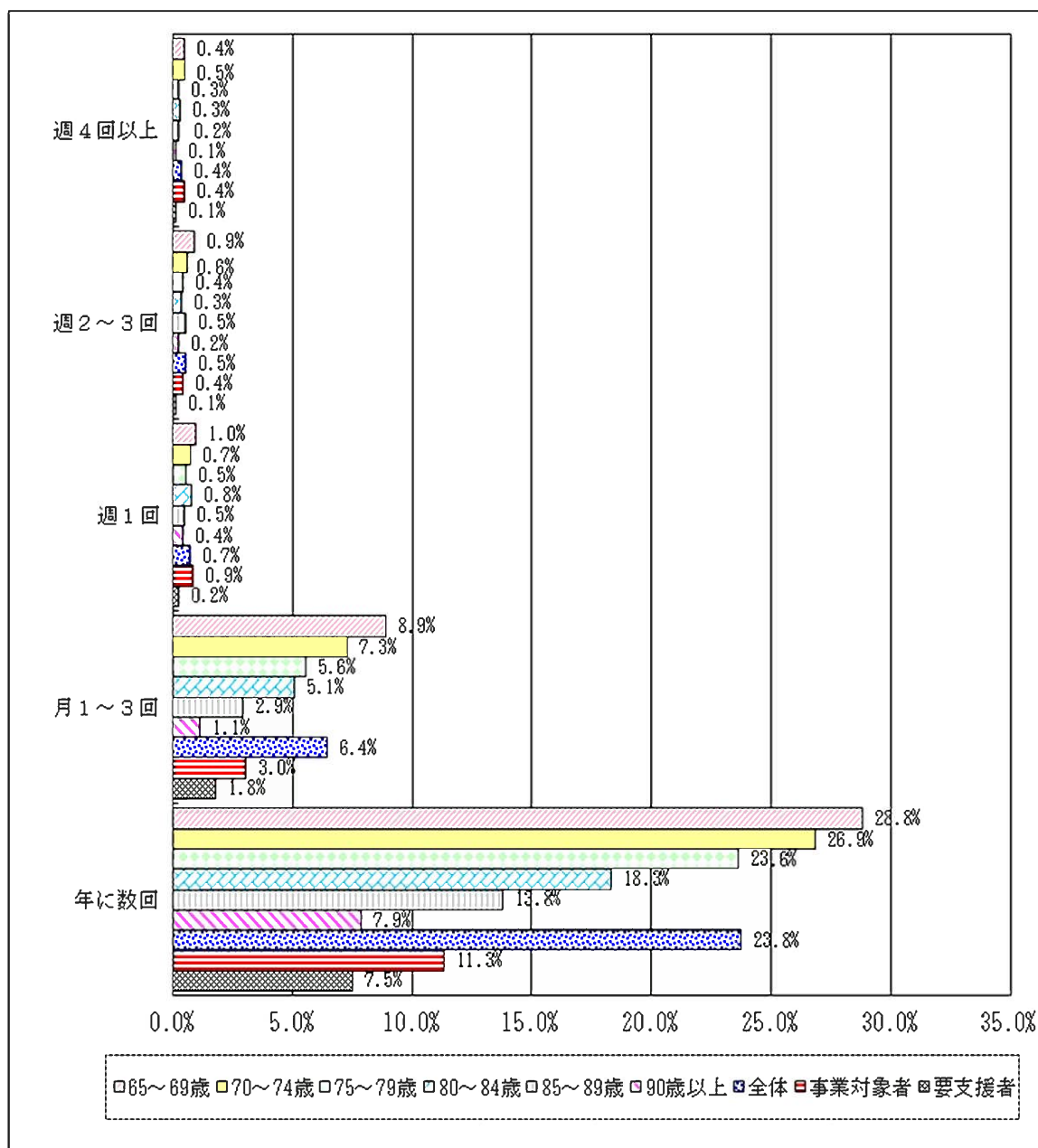
【図 8：介護予防のための通いの場への参加頻度】



【図 9：シニアクラブ・老人クラブへの参加頻度】



【図 10：町内会・自治会への参加頻度】



【図 11：収入のある仕事への参加頻度】

